

国立自然史博物館設立をめざして－ 自然史資料の保全、自然史科学の発展と将来への礎

公開シンポジウム



日時：令和7（2025）年11月22日（土）13:00～17:00

場所：オンライン開催

主催：日本学術会議自然史、古生物学分科会、動物科学分科会、海洋生物学分科会、進化学分科会、植物科学分科会、IUBS 分科会

共催：一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会、日本分類学会連合、自然史学会連合

参加費：無し 下記 URL または右の QR コードから事前登録してください

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScDzv2UpYGOjcS-yP4QmdYfJoJldUK5RbffX0acXGH_xQ88lwA/viewform?usp=header

11月20日登録締め切り(定員になり次第締め切ります)



開催趣旨：国立自然史博物館の設立は長く自然史研究者の念願であった。近年、自然史資料はその収蔵施設が不足する中、貴重な標本類が急速に失われているのが実情である。また、自然史科学は自然の多様性の把握とその起源・進化を明らかにする学問として発展しつつあり、その研究の中心機関として国立自然史博物館の設立は急務である。過去の動植物相の変遷を知り、現在から未来にわたってその変化をモニターするために蓄積されるべきデータは、生物多様性を把握し地球環境の保全にも役立つ自然史博物館が持つべき重要な機能の一つで、わが国の持続可能性に寄与するだけでなく、次世代教育を含めた社会貢献にも欠かせないものである。本シンポジウムでは国立自然史博物館の設立に向けて、長く自然史研究に携わってきた研究者を中心に、国立自然史博物館の必要性を訴えていただくと同時に、国立自然史博物館を実現するために多様な分野の研究者で力を合わせ、具体的に何をすべきかを議論することを目的とする。

総合司会：大路 樹生（日本学術会議連携会員）

13:00 開会の挨拶 磯 博康（日本学術会議副会長）

13:10 趣旨説明 大路 樹生

第1部「自然史研究の重要性と問題点」

13:20 講演「自然史研究の一次資料はどれほど大学から失われたのか」
堀 利栄（日本学術会議第三部会員）

13:40 講演「自然史研究の醍醐味 新しいテクニックを用いた研究から見てきたこと」
三上 智之（国立科学博物館地学研究部）

14:00 講演「国立自然史博物館の研究機関としての役割」
遠藤 一佳（東京大学大学院理学系研究科教授）

14:20 講演「国立沖縄自然史博物館設立を目指して」－設立準備運動に携わってきた立場から
岸本 健雄（一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会代表理事）

14:40 講演「進化学分野から国立自然史博物館に求めたいこと」
石川 麻乃（日本学術会議連携会員）

15:00～15:20 休憩

第2部「総合討論」

15:20 パネラー

西田 治文（日本学術会議連携会員）

村上 哲明（日本学術会議連携会員）

久保田 好美（日本学術会議連携会員）

堀 利栄 三上 智之・遠藤 一佳・岸本 健雄・石川 麻乃

16:45 閉会の挨拶 大路 樹生

